

1964(昭和39年)

会員数36名

13代理事長
菊池公孝



昨年12月14日、愛媛証券3階ホールで行った定時総会で、新年度の役員が決定、理事長菊池公孝、副理事長神応光徳・坂本武、専務理事竹村寿時の各氏である。

この年は現在田中町の会議所が建設中であった為、事務所は商工会議所と共に矢野町稲生宅にあった。

昨年、設立以来の元勲山本巖・菊池仙一・平田久市・松本栄等が一同に卒業され、メンバーは30人を割った。急ぎ新入会員を募り、青年会議所立て直しを計った。

この年宮本一成・鈴木欽次郎・木梨亨氏等を始め10数名の新入が続きと入会しJCは新しい時代を迎えた。

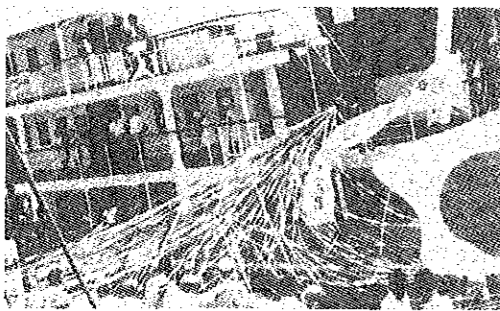
この年のスローガンも「新時代を築く若さと指導力」と挙げ、八幡浜青年会議所に新風を吹き込まんとした。

3月に恒例の勤労青少年の門出を祝う会を催した。この会も7年目を迎え、諸官庁にあっても充分な協力と理解を得ていて「八幡浜市婦人研究大会」に出席を要請されたり、愛媛婦人少年室から「年少労働者福祉連絡協議会」への参加の申し込みがあり総務・経済・政治の3委員会は総務・経済・社会と改め次第に市民に定着していった。

5月10日四国地区大会が宇和島天教園で開催され、八幡浜から多くのメンバーが参加した。

昨年平田久市氏を市会議員に見事トップ当選させた会員の団結力をさらに固める意味と、JC次の新しい時代を築く為、4月26日21家族が出席し、大洲城山公園で家族親睦会を行う予定であったが雨となり急遽ダムのある鹿野川荘へ場所を変更した。

8月7日宮本一成氏が総理府の第6回日本青年海外派遣団の一員として中南米諸国へ視察親善の旅に出る荘行会を「なかよし」で行う。まだまだ海外旅行が珍しい頃で市民の注目をあびた。万歳と無数のテープに見送られ、宮本氏は8月10日正后発の別府航路の船上の人となり南米に向った。



海外派遣団として中南米へ旅立つ宮本一成氏を見送る八幡浜港での出発の様相

旅行中の宮本氏の便りは度々八幡浜新聞に掲載され、会員は宮本氏の元気な活躍ぶりを知る事が出来た。後にこの海外派遣団には伊藤礼司・森分信二・大本宗司君へと続きその伝統は八幡浜JCの誇りでもある。前野本市長が、子供の為に解放した土地に造られた築港子供遊園地の遊具の寄付をライオンズクラブ・西南開発と共に青年会議所も協力を

行った。

10月港祭りの仮装行列は丁度日本でオリンピックが開催されていた為、「4年たったら又会いましょう」という題で次の開催地メキシコの扮装で会員一同出演した。これは手作りの衣裳で安く上りマンネリ化していた当時の仮装行列に異彩を放った。

仮装行列の目玉的存在は何といってもJ.Cグループによる図抜けたアイデアと趣向であった。

12月12日宮本一成氏の帰国歓迎会及び家族会を毎月で行い、会は元気に帰国した宮本氏の土産話に花を咲かせた。

この一年、少数メンバーであったが、全員が理事長の菊池公孝氏をよくたすけ、数々の事業を苦もなく消化していった。一時代の変換期でもあり、この期をさかんにJCも新しい時代を迎えていったのである。



4月20日鹿野川荘での家族会



みなと祭り仮装行列参加「4年たったら又会いましょう」全員次のオリンピック開催地メキシコの扮装で出演



5月10日宇和島天教園で行われた四国地区大会

1965(昭和40年)

会員数37名

14代理事長
坂本武



坂本理事長は10代梶田理事長の年に入会した。前年迄にはほとんどチャーターメンバーが卒業され古いものにあまり影響されなかった為か、坂本氏は新しい感覚で事をはじめ、例会等もかなり変化を見るようになった。

この年には二つの大きな出来事があった。一つは四国地区協議会会長問題であり、他の一つはJCニュースの発刊である。

四国地区協議会会長問題というのは、こういう事である。この年の四国地区協議会会長は高知JCの吉村雄治氏であった。三月に松山で四国地区会員大会があった後、観音寺で理事者会議があり、その席上、次年度会長に松山JCの井関一幸氏が推薦されたが、井関氏は固く辞退され愛媛の他JCの誰かをということになり、それではと、四国パイオニアを自負していた八幡浜JCは、他JCのすすめもあってチャーターメンバーの片山武弘氏を推薦した。

ところが宇和島JCも金尾俊文氏を推薦していたので、どちらかの人と話し合ったが取捨がつかず選挙となった。その結果、金尾氏の会長と決まり八幡浜JCは惜しくも敗れたのであった。

この事は八幡浜JCに大きなショックを与え、古いJCは八幡浜JCの事をよく理解してくれており、宇和島JCでもある事からよもや負けるとは思っていなかったのだ。四国で一番古いJCの生みの親であると自負していたのだが、新しく生まれたJCにとっては四国の西の小さなJCにすぎなかったのである。

内部充実を力を入れている間に、四国の他のJCからは印象の薄いJCになりつつあった。その間宇和島JCは協議会等の四国の会合によく出席し対外的につきあい深めていった。こうした事が選挙の結果となって現われた。

この出来事を契機に八幡浜JCは内部充実にとどまらず、対外的にも積極的に働きかけるようになった。坂本理事長はこの苦い経験から理事長を退いてからも自ら積極的に対外的行動をし、それまで非公式に存在はしていたが正式に日本JCより公認を得ていなかった愛媛ブロック協議会を北四国地区協議会やその他の会合において大いに提唱し、奔走努力した結果、数年後に誕生を見たのである。

この年、対外的な行動に全力をそそぐと共に内部充実をも忘れていなかった。その一つがJCニュースの発刊である。JCニュース発刊の懸案は以前からあったものの踏ん切りがつかぬままであったものを坂本理事長の一声によりがり版刷りで週一回発刊するようになった。

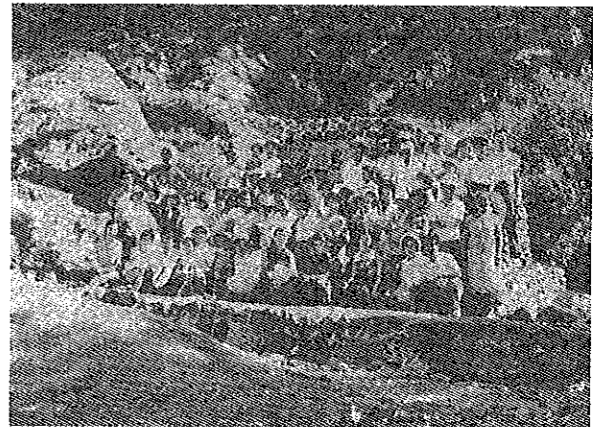
その内容は身近な出来事が殆どで、それだけ興味を持たれ、6人の編集が交代で行なった。坂本理事長ががり版刷りした表紙を持参し、これでやろうと渡したのがスタートで、回を重ねる毎に充実して来た。

又、3分間スピーチも30分間に延長され、発表者の自己鍛練の為に仕事を通じての人生感を述べさせた。この30

分間スピーチは長くは続かなかったものの一年間は実行され発表者にとっては、内容のまとめ、表現力で大変な苦勞があったものの敢て追い詰める事により各個人の成長を促していたもので非常に勉強になったようである。



阿波鳴門にて・坂本・村上・菊池・片山 平田・松本の会員



夏期家族会・鹿島へ海水浴



第12回四国地区会員大会 (松山にて)



みなと祭り仮装行列「踊る竜宮城」